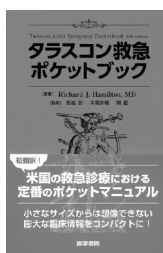


[評者]

林 寛之

福井大学病院教授・救急科
総合診療部長



タラスコン救急ポケットブック

Richard J. Hamilton 原著

船越 拓, 本間洋輔, 関 藍 監訳

● A6 変型 頁 308 2018 年 6 月

定価：本体 2,600 円＋税

[ISBN978-4-260-03547-7] 医学書院刊

タラスコンといえば南仏プロヴァンスの町。紀元前に退治されたという怪物タラスクに思いを馳せる盛大なお祭りが、落ち着いた街中で盛大に行われるという。でも救急の世界ではタラスコンは怪物にも似たものすごい膨大な情報を詰め込んだ『タラスコン救急ポケットブック』を意味する。コンピューターや電子書籍が発達した昨今、膨大な量の情報を持ち歩けるようになったとは言うものの、検索の素早さ、目の通しやすさにおいては、やはり目の前にある書籍に勝るものはない。

救急の良書は最近たくさん世に出ている。診断学を鍛える本は多いものの、診断が付いた後の治療まで手を伸ばすのはなかなか難しい。そんな膨大な情報を包括できる本など持ち歩けるはずもない。ところが、パッパッパッパァ〜ララ〜(ドラえもののひみつの道具を出すときのジングルで)！ このタラスコンはまさしく知識の宝庫、実臨床で使う情報が細かく書いてある。

実際の臨床では「あの診断基準ってなんだっけ?」「吐血の Blatchford score ってなんだっけ」などの状況下では記憶の助けになる。めまいも、Epley 法のみならず HINTS exam にも言及しており、情報が新しく日本語訳も読みやすい。敗血症においては Sepsis-3 にも対応し、情報は原本よりもしっかりアップデートされているので、この日本語版はとってもお得。

鑑別診断もただ羅列するのではなく、頻度も記載し

てあるのはうれしい。内科のみならず外科系、産婦人科なども広くカバーされ、救急を専門としない医師や当直で四苦八苦する研修医たちの「心の友よお〜(ジャイアン風に読んでください)」になれる一冊。

タラスコンでは感染症に対しては実に多くのページを割いている。ハリソンだって感染症の項目は最も多いもんね。中毒なんて普通の当直医が知るはずもなく、本書は実にコンパクトにうまくまとまっているので、どこに何が書いてあるかを覚えておくだけで夜の強い味方になる。生物・化学・放射線曝露に関しては、救急のプロでさえ覚えていないことが多く、ホントに役立つ。

非常にコンパクトでただ普通のポケットに入るだけでなく、胸ポケットに入っちゃうのが実に凄い。胸ポケットから緑色の本書が見え隠れするのは何となく格好いいぞ！

ただ、これだけの膨大な内容を細かく記載するとすると、文字も細かく、びっしり埋まっていてどうにもこうにも老眼が進んだ医師には実に読みづらい……。でもこれだけ現場で使える情報を詰め込んだとなれば、きつといざとなったときにあなたを助けてくれる。まあ、読み物というより、しっかりした辞書みたいな完成度だからね。そこは実用性をてんびんにかけて大いに活用しようではないか。